

### 1 【活動の趣旨】

- ・ 地元の人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。
- ・ 全校で学びの成果を展示物にまとめ、「渋川ESD（E：いいまち S：しぶかわ D：だいすき）ミュージアム」を開催している。



【ESDミュージアム】

### 2 【特徴的な活動内容】

- ・ 5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に郷土料理の魅力について考えた。琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食した。また、日野町からは和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。
- ・ 6年生では、「世界農業遺産」に認定された滋賀県の農業を中心に学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の魅力を知ることを通して郷土への愛着や誇りを深めることをねらいとした。米・野菜・茶をテーマに、生産者と出会ったり農産物を味わったりする体験を数多く取り入れた。近江茶学習では、近江茶の歴史や産地の特徴について学び、ほうじ茶づくりを体験し味わうことができた。



【ほうじ茶づくり】

### 3 【実施に当たっての工夫】

地域に関わりのある物や、ゆかりのある方との調整を地域コーディネーターが中心となって行っている。また、地域コーディネーターと担任との連携を密に行うことにより、学校ニーズを把握した上で充実した活動を行うことができています。活動内容に関しては、見たり触れたり味わったりする体験的な活動を行うことで記憶に残るような活動にした。

### 4 【事業の成果】

すべての学年が地域の方の協力を得ながら活動することで、子どもたちの豊かな体験の場・学習の場になっている。それらの活動を通して子どもたちは地域に愛情を持つようになり、地域の行事に積極的に参加することにつながっている。「いいな いいな とともに学んで ふれあうまち 渋川」のテーマの通り子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・ 探究的な学習や協働的な学習を行うための工夫をしていく必要がある。
- ・ めあてをしっかりと設定して見通しをもって取り組みたい。
- ・ 渋川学区の人材だけに頼ると毎年同じような内容になってしまうため、市や県内の講師の方にも目を向けていくとともに、従来通り地域の方々にもサポートしていただきながらより良い取り組みを行っていきたい。